最新版　：http://www.kojima-core.co.jp/report.html
バックナンバー：http://www.kojima-core.co.jp/backnumber.html
e-mail：kojima@kojima-core.co.jp

施工の正確性を追究した

規制リング　KR

クリアランスを担保　追100423

見える化技術

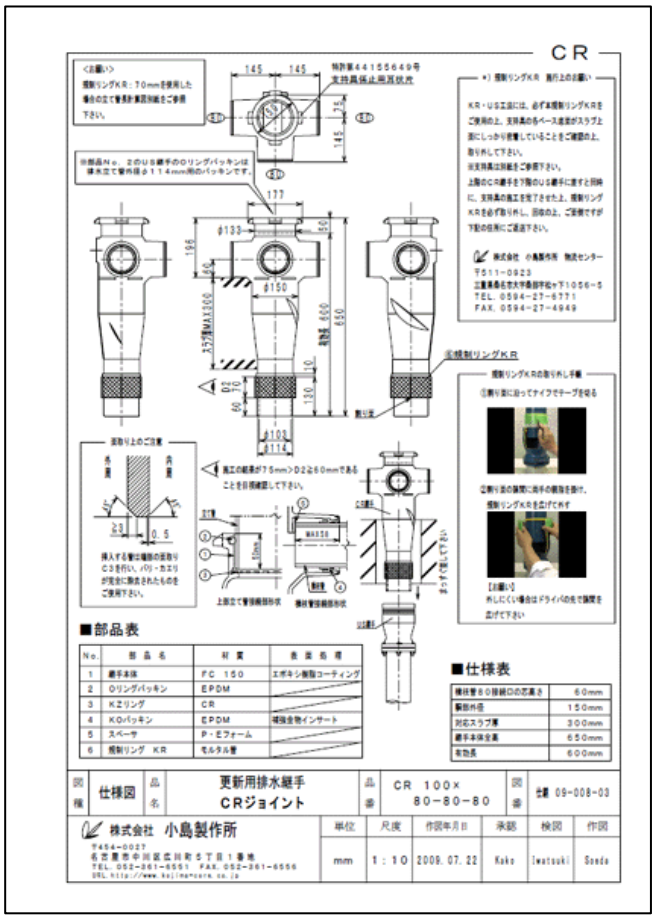
規制リングKR（半割りモルタル管）は、施工の正確性（更新のためのやり取り代確保）を追究した見える化技術です。

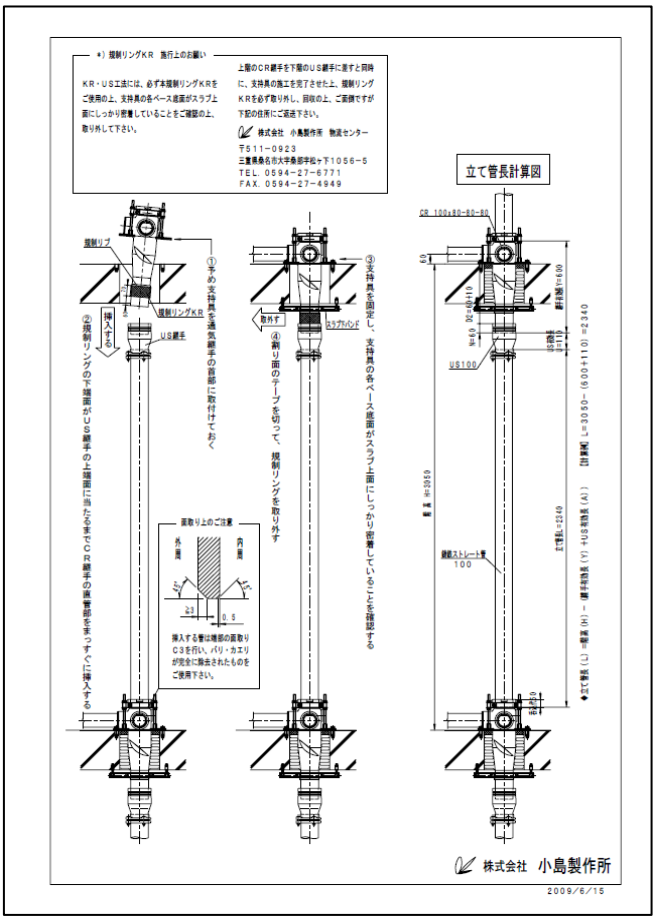
- **規制リングKRはD2＝70mmです。　※呑込代を計算したりマーキング線を引く必要はありません。**　追100412

  施工の結果が75mm＞D2≧60mm（施工誤差調整範囲内）であることを目視確認して下さい。

  注）やり取り代D2：US継手の上端面とCR継手差し口の規制リブ下端面との距離を表します。

- 地震時の変位は、US継手内で±20mmまで吸収可能です。





【KR－US工法の接合手順】　追100419

下階のUS継手の受口に、上階の継手挿し口を、規制リングKRが当たって止まるまで挿して下さい。
本工法は、これによって立て管を上方にずらせるクリアランス20mmが担保されます。（規制リングKRの作用）　追100428

「持上げる」「ずらす」「はずす」hp2009.11.15号参照　追100428

立て管を持上げる際のクリアランスを担保する方法は、小島が開発しました。　追100430